

3次 天城町農業ビジョン



たのしいの~ らくのう
楽しい農で目指せ楽農!!

目指せ45億!!

令和3年 12月



天 城 町

はじめに

本町においては、平成22年3月に天城町農業ビジョンを策定し、平成28年3月には2次天城町農業ビジョンを天城町農業の羅針盤としてお示しさせていただきました。

今回、3次天城町農業ビジョンの見直しにあたって、離島という厳しい生産条件等を克服すべく、畑かん整備による水の活用と地理的・自然的特性や地域の創意工夫を生かし、農業が持続可能な産業として次世代へ引き継いでいけるよう検証を行いました。

引き続き農業生産額45億円が恒常的に達成可能なものとなるよう、前回の実績や取り組みを踏まえたうえで、現状の課題に対する分析を行い、天城町農業が目指す将来像に向けた施策をまとめました。

全国的な少子高齢化による人口減少が深刻化し、農業分野においても担い手不足は大きな課題として対応が求められております。昨年から新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、暮らしや経済活動など生活様式が大きく変化しています。

これらに対応すべく地産地消について再度見直し、スマート機器の活用や地域全体で課題解決へ向けて取り組むことなど農業も変革が必要となっています。

また、世界的なSDGsへの取り組みや本年7月の世界自然遺産登録を受け、環境や観光との連携も視野に入れた農業への取り組みもこれまで以上に求められております。

本年6月に策定しました「ユイの心で紡ぐまち天城」を基本理念とした第6次天城町総合振興計画「AMAGI VISION」においても、農業の振興は本町の発展に欠かすことのできない大きな位置を占めております。

農業を取り巻く全ての町民がそれぞれの規模やそれぞれのライフステージに合わせ、「^{たのしいの～}楽しい農で目指せ^{らくのう}楽農!! 目指せ45億!!」を合言葉に邁進していけるよう指針の一助となれば幸いです。

おわりに、ご意見ご提言を賜りました関係機関、団体、関係者の皆様に対しまして心より感謝申し上げます。

令和3年12月

天城町長 森田 弘光

目 次

第 1 章 天城町の概要

1	位置	-----	1
2	気象	-----	1
3	土壌	-----	1
4	人口の推移	-----	2
5	その他	-----	2

第 2 章 農業構造の概要

1	耕地面積	-----	3
2	農家戸数	-----	3
3	年齢別農業従事者数	-----	4
4	法人経営体	-----	4
5	後継者の確保状況	-----	4
6	経営耕地面積規模別経営体数	-----	4
7	天城町の農業生産の概況		
	①令和 2 年度の生産実績	-----	5
	②過去 5 年間の作物別の生産実績	-----	6

第 3 章 農業の現状と課題

1	担い手の確保	-----	7
2	作物別の現状と課題	-----	7
3	地産地消と食育	-----	10
4	農産加工（6 次産業化）	-----	10
5	農地の集積・集約化	-----	10
6	環境保全型農業、資源循環型農業	-----	10
7	鳥獣対策	-----	11

8	特用林産物	11
9	スマート農業	11

第4章 施策の基本方針

	今後の農業の進め方について	12
1	担い手	15
2	作物別の振興方策	15
3	地産地消と食育	17
4	農産加工（6次産業化）	18
5	農地の最適化	18
6	環境保全型農業、資源循環型農業	18
7	鳥獣対策	18
8	特用林産物	19
9	スマート農業	19
	天城町農業生産額（現状及び目標）	20

第1章 天城町の概要

1. 位置

天城町は、南北に連なる奄美群島のほぼ中央の島「徳之島」にあり、北緯 27 度 48 分、東経 128 度 53 分に位置し、面積は徳之島全体の 1/3 を占める 80.40 k m² で、北東から南東にかけて一連の山岳地に囲まれ、隣町との境界をなしています。ここから発する、港川、湾屋川、真瀬名川、秋利神川等が、東シナ海へ注いでいます。

本町には 14 の集落があり、12 集落は海岸線に沿って形成され、当部と三京集落は山間部にあります。



2. 気象

気候は、亜熱帯海洋性で四季を通じて温暖多湿で、降雨量（年間降雨量 2,176.5 mm）も多く、平均気温が 22.6 度になっています。

7 月から 10 月にかけて特に台風が多く襲来し、さらに季節風や干ばつなども、農作物に多大な影響を与えています。（アメラス 2020 年）



3. 土壌

徳之島の地質は、サンゴ礁由来の琉球石灰岩を母材とした暗赤色土と粘板岩など固結堆積岩を母材とした黄色土が全体の 8 割を占めています。いずれも重粘質土で、①腐植が少ない、②過湿になるとベトベトして農作業が困難、③乾燥すると固結して耕耘作業を妨げる、④保水量が少なく乾燥しやすいなどの共通の性質があります。

土壌診断を行い、継続的な堆肥の施用と入念な耕耘で排水を徹底するなど、土づくりが必要です。

4. 人口の推移

	H12(1990)年	H22 (2010) 年	R2 (2020) 年	R12(2030)年
人口(人)	7, 2 1 2	6, 6 5 3	5, 5 1 7	4, 9 6 0
10 年前比較	△ 2. 1	△ 7. 8	△ 1 7. 1	△ 1 0. 1

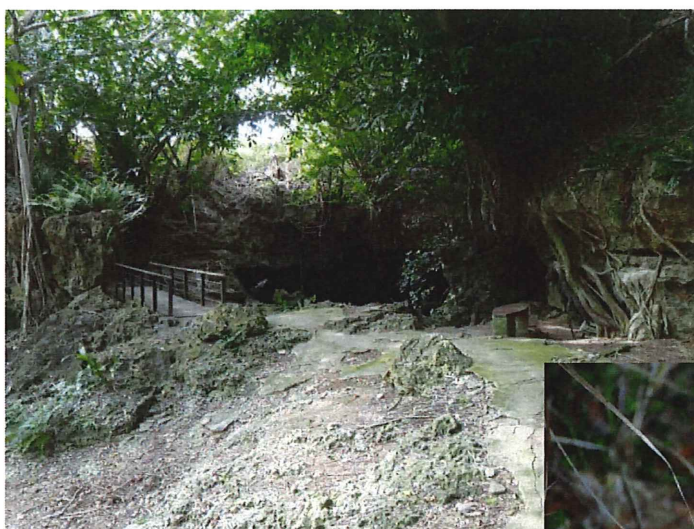
(R2 までは国勢調査。R12 は社人研による推計値)

合計特殊出生率が高く「子宝の島」として有名ですが、若者の転出も多く、人口は年々減少し、歯止めがかからない状況にあります。

日本の高齢化率が 28.6% (2020 年国勢調査) に対し、本町では 37.1% となっていることから、農業の分野においても、後継者・担い手不足は大きな課題です。

5. その他

貴重な動植物が生息し、「東洋のガラパゴス」と称され、令和 3 年 7 月 2 6 日には、徳之島全面積の約 24% にあたる天城岳・井之川岳周辺の山間部が、世界自然遺産に登録されました。観光資源としては、ムシロ瀬、犬の門蓋、ウンブキなど、自然豊かな名所や、トライアスロン IN 徳之島大会、温暖な気候を活かした社会人・学生のスポーツ合宿が行われています。



第2章 農業構造の概要

1. 耕地面積

(R3. 4. 1現在)

	総面積 (ha)	耕地面積 (ha)		耕地率 (%)	1戸平均 耕地面積(a)	
		田	畑			
天 城 町	8,040	2,120	0	2,120	26.4	274.2

(農林水産省・面積調査R2. 2月)

- ・総面積8,040haのうち、耕地面積は2,120haで1戸当たり耕地面積は274.2aです。
- ・ほ場整備 84.5% ・畑地かんがい 25.6% (R3年5月現在)

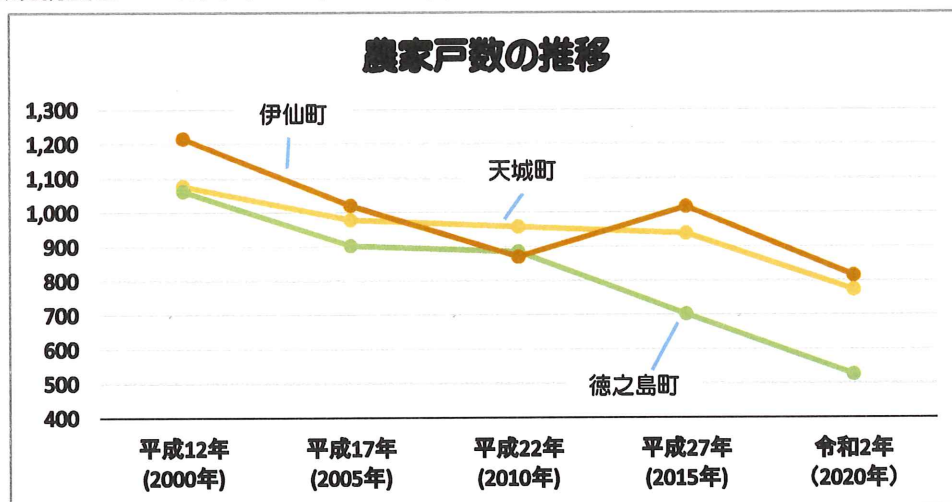
2. 農家戸数

農家戸数の推移

	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
天 城 町	1,077	978	958	938	773
徳之島町	1,062	903	885	703	527
伊 仙 町	1,216	1,020	870	1,017	815
合 計	3,355	2,901	2,713	2,658	2,115

(農林業センサス)

- ・他町に比べ本町農家戸数はゆるやかではあるが、年々減少しています。
- ・認定農業者数 133人 (R3. 3. 31)
- ・新規就農者 19人 (2005年～2010年)



※後記「6. 経営耕地面積規模別経営体数」の戸数との差異は、団体経営体数・受託のみ農家戸数・林業戸数が含まれているため

(2020年は、団体経営体数16戸・受託のみ農家戸数11戸・林業戸数1戸が含まれています。)

3. 年齢別農業従事者数

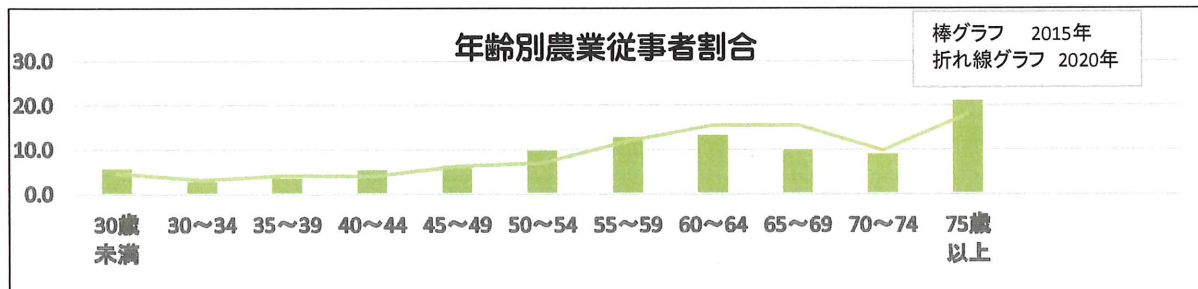
	総数	30歳未満	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75歳以上
人数(人)	1,705	99	48	61	93	110	166	219	226	170	153	360
割合(%)	100.0	5.8	2.8	3.6	5.5	6.5	9.7	12.8	13.3	10.0	9.0	21.1

(2015年農林業センサス)

	総数	30歳未満	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75歳以上
人数(人)	1,270	60	41	53	51	79	88	151	196	197	125	229
割合(%)	100.0	4.7	3.2	4.2	4.0	6.2	6.9	11.9	15.4	15.5	9.8	18.0

(2020年農林業センサス)

・年齢別農業従事者は年々高齢化が進み、65歳以上の割合が2015年は40.1%、2020年は43.3%となっています。

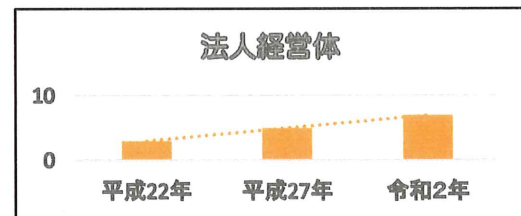


4. 法人経営体

	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
天 城 町	3	5	7

(農林業センサス)

・法人経営体は微増しています。

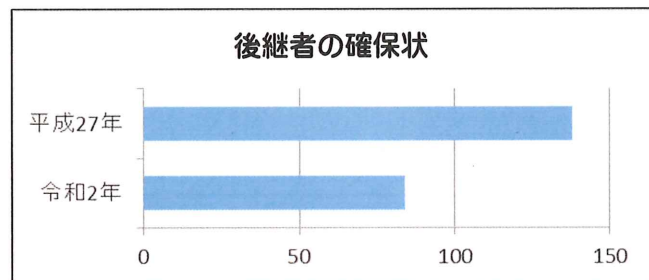


5. 後継者の確保状況 (単位：人)

	平成27年	令和2年
天 城 町	138	84

(農林業センサス)

・後継者は減少しています。

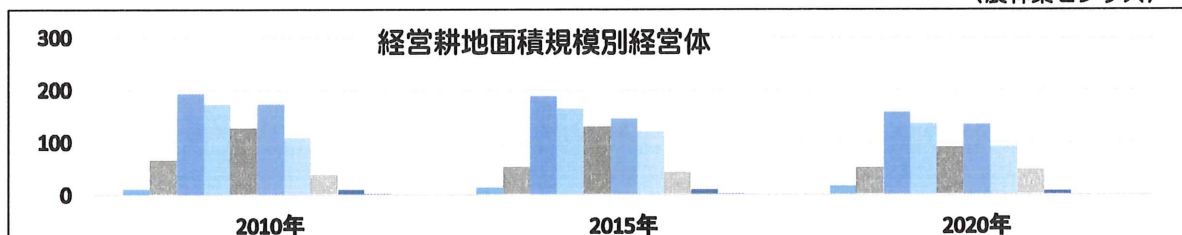


6. 経営耕地面積規模別経営体数

(単位：戸)

	0.3ha未満	0.3～0.5ha	0.5～1.0ha	1.0～1.5ha	1.5～2.0ha	2.0～3.0ha	3.0～5.0ha	5.0～10.0ha	10.0～20.0ha	20.0～30.0ha	30.0～50.0ha	計
2010年	12	67	194	174	128	174	110	39	11	3	0	912
2015年	15	54	189	166	131	146	122	44	11	3	0	881
2020年	18	52	158	137	91	135	93	49	9	1	2	745

(農林業センサス)



7 天城町の農業生産の概況

① 令和2年度の生産実績

令和2年度の農業生産額は下表のとおり、42億7,302万9千円の実績でした。

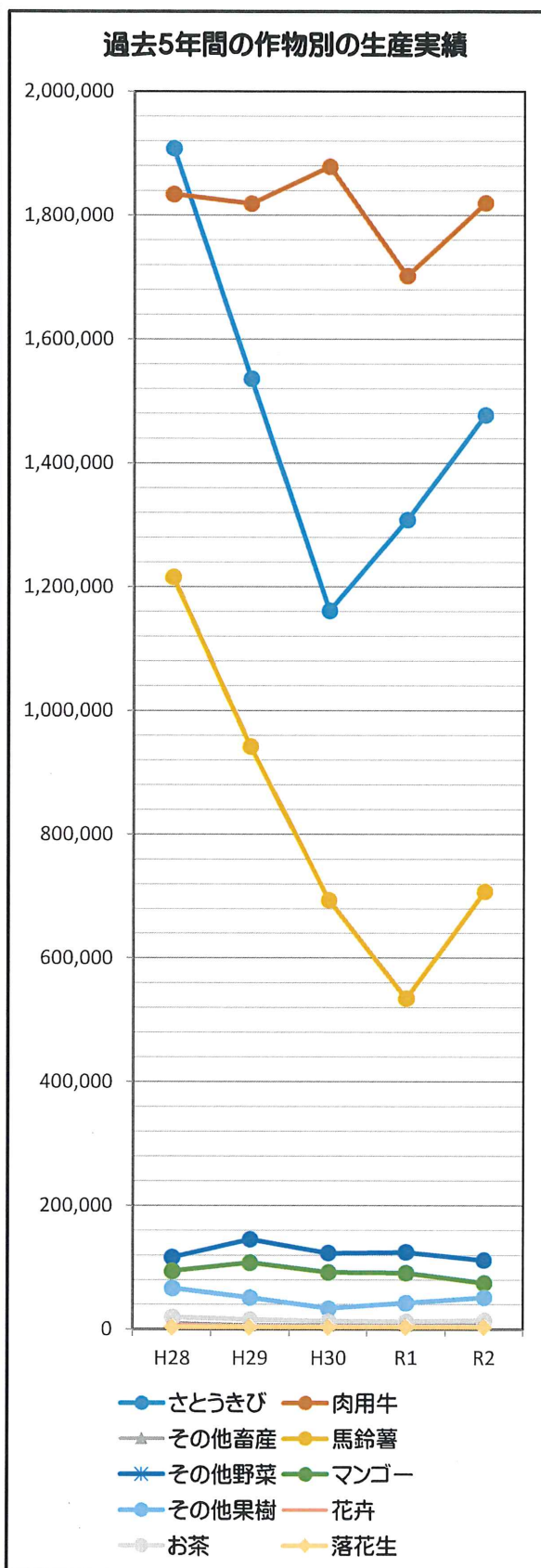
R3.7.5 現在

区分	作 目 名	面積・頭数	単 収	生 産 量	生産額(千円)	構成(%)
耕 種 部 門	水 稻			0.0		
	一期作・二期作	0.0		0.0		
	茶	16.3 ha	87.7 kg	14.3 t	14,300	0.34
	落 花 生	5.0 ha	180.0 kg	9.0 t	3,600	0.08
	さとうきび	1,140.0 ha	5,912.0 kg	67,393.0 t	1,477,659	34.58
	春 植	260.0 ha	5,662.0 kg	14,721.0 t	322,773	
	夏 植	62.0 ha	7,119.0 kg	4,414.0 t	96,781	
	株 出	818.0 ha	5,900.0 kg	48,258.0 t	1,058,105	
	(新植夏植)	75.0 ha				
	野 菜	288.8 ha		2,466.9 t	819,678	19.18
	(1)輸送野菜	248.8 ha		2,466.9 t	787,678	
	サトイモ	1.2 ha	1,756.4 kg	21.0 t	10,528	
	ばれいしょ	226.0 ha	1,040.0 kg	2,269.2 t	708,002	
	ニンジン	0.4 ha	750.0 kg	3.0 t	318	
	カボチャ	1.0 ha	1,111.0 kg	10.0 t	2,950	
	メロン	0.5 ha	1,800.0 kg	9.0 t	9,000	
	ニガウリ	0.7 ha	2,123.0 kg	16.0 t	4,690	
	生姜	1.5 ha	2,466.0 kg	36.5 t	9,875	
	ゴ マ	2.0 ha	9.3 kg	0.18 t	444	
	実えんどう	5.5 ha	850.0 kg	47.0 t	28,121	
	その他	10.0 ha	kg	55.0 t	13,750	
	(2)自給野菜	40.0 ha		t	32,000	
	花 き	0.4 ha		23.4 千本	3,133	0.07
	(1)切り花	0.4 ha	6.5 千本	23.4 千本	3,133	
	キ ク	0.0 ha	0.0 千本	0.0 千本	0	
	グラジオラス	0.0 ha	0.0 千本	0.0 千本	0	
	トルコギキョウ	0.36 ha	6.5 千本	23.4 千本	3,133	
	その他	0.0 ha	0.0 千本	0.0 千本	0	
	(2)観葉植物	0.0 ha	0.0 千本	0.0 千本	0	
	果 樹	17.6 ha		79.9 t	126,550	2.96
	タンカン	7.0 ha	428.6 kg	30.0 t	12,000	
	ポンカン	0.0 ha	0.0 kg	0.0 t	0	
	パッションフルーツ	1.5 ha	1,426.7 kg	21.4 t	32,100	
	びわ	0.0 ha	0.0 kg	0.0 t	0	
	極早生温州	0.0 ha	0.0 kg	0.0 t	0	
	マンゴー	5.5 ha	454.5 kg	25.0 t	75,000	
	ビタヤ(ドラゴンフルーツ)	0.6 ha	583.3 kg	3.5 t	2,450	
	その他	3.0 ha	kg	t	5,000	
	小 計	1,468.1 ha	-	-	2,444,920	57.21
畜 産 部 門	肉 用 牛(飼養雌牛)	3,909 頭			1,820,109	42.60
	子 畜(出荷数)			2,758 頭	1,820,109	
	成 畜(出荷数)			0 頭	0	
	枝 肉			0 頭	0	
	馬			頭		
	豚	25 頭			1,500	0.04
	子 畜			0 頭	0	
	枝 肉			50 頭	1,500	
	山 羊	150 頭			6,500	0.15
	子 畜			100 頭	1,500	
	枝 肉			100 頭	5,000	
	採卵鶏	0 羽				
	枝 肉			kg		
	鶏 卵			kg		
	ブロイラー	0 羽		0 kg	0	
	飼料作物	598.0 ha				
	小 計				1,828,109	42.79
総 計		2,066.1 ha			4,273,029	100.00

② 過去5年間の作物別の生産実績

農畜産物生産実績表 (H28～R2年度)

作 目	年 度	生 産 額 (千円)	備 考
さとうきび	H28	1,908,619	
	H29	1,536,537	
	H30	1,161,967	
	R1	1,308,499	
	R2	1,477,659	
肉 用 牛	H28	1,834,598	
	H29	1,819,132	
	H30	1,878,910	
	R1	1,702,703	
	R2	1,820,109	
その他畜産	H28	9,725	豚、山羊
	H29	6,725	
	H30	6,725	
	R1	6,725	
	R2	8,000	
ばれいしょ	H28	1,216,306	
	H29	942,610	
	H30	694,320	
	R1	535,482	
	R2	708,002	
その他野菜	H28	116,722	サトイモ ニンジン カボチャ 生姜、ゴマ メロン等
	H29	145,655	
	H30	123,348	
	R1	124,765	
	R2	111,676	
マンゴー	H28	94,500	
	H29	108,000	
	H30	92,400	
	R1	91,500	
	R2	75,000	
その他果樹	H28	66,909	タンカン ボンカン パッションフルーツ ビタヤ(ドラゴンフルーツ) パパイヤ等
	H29	51,570	
	H30	33,860	
	R1	42,850	
	R2	51,550	
花 き	H28	7,104	トルコギキョウ キク等
	H29	5,017	
	H30	4,483	
	R1	3,883	
	R2	3,133	
茶	H28	19,800	
	H29	16,000	
	H30	12,800	
	R1	12,500	
	R2	14,300	
落花生	H28	3,600	
	H29	3,600	
	H30	3,600	
	R1	3,600	
	R2	3,600	
合 計	H28	5,277,883	
	H29	4,634,846	
	H30	4,012,413	
	R1	3,832,507	
	R2	4,273,029	



第3章 農業の現状と課題

1. 担い手の確保

農業のみならず、高齢化や後継者不足は深刻で、今後、女性の農業参画や新規就農者確保などによる担い手の維持・確保が課題となっています。

現在、認定農業者や担い手農家、新規就農者を地域の「中心経営体」として位置づけ、今後も持続可能な農業として発展していけるよう「人・農地プラン」を作成中です。

2. 作物別の現状と課題

○共通事項

平成 22 年 3 月に天城町農業ビジョン、平成 28 年 3 月には2次天城町農業ビジョンを策定し、生産額 45 億円を目標に、生産振興に取り組んできました。

農業ビジョン策定後、生産目標額 45 億円は 2 度達成しましたが、気候や相場に左右されるため、安定した生産が求められています。

この間、基幹作物は変わっていませんが、担い手・後継者不足が深刻さを増し、労働力不足に対応すべく少しずつ農業体系は変わりつつあります。また、限られた耕作地でいかに単収を上げるかが大きな課題となります。

平成 27 年に、徳之島ダムの一部通水が開始された、畑かんを活用した生産性向上、さらに、産地強化や安心・安全な農畜産物の安定供給、地元産を活用した加工・特産品作りなどの 6 次産業化に向けた取り組みなど、農業の維持・発展に向け、取り組んでいかなければなりません。

①さとうきび

さとうきびは永く本町の基幹作物として地域経済を支えてきましたが、農家の高齢化、担い手不足等により、農家戸数及び収穫面積の減少が懸念されています。平成に入り、ハーベスタ収穫が主流となり、収穫に係る労働力の軽減は図られてきたものの、収穫期と植付・管理作業時期が重なり、適期植付・株出し管理作業体制が十分に整えられず、単収向上阻害の要因となっています。

また、大型台風襲来や病虫害被害による単収の低下に加え、近年は難防除雑草（ギニアグラス等）の被害も拡大しており、農家の栽培意欲の低下が懸念されています。

② 肉用牛

飼養頭数は口蹄疫の影響などにより、平成 22 年度をピークに、一時期減少していましたが、自家保留・導入奨励事業の効果もあり、新規参入や規模拡大意欲が高まり、近年、増加傾向にあります。しかし、担い手不足や自給粗飼料の確保、飼料価格の高騰や施設建設に係る生産コストが高額なことなど、課題も多くあります。

さらに、家畜ふん尿処理の有効活用や死亡獣畜の適正な処理なども求められています。

③ ばれいしょ

鹿児島ブランド「春一番」として定着しているばれいしょですが、価格が市場動向に左右されやすいことやえき病の影響、労働力不足により面積の維持拡大が課題となっています。また、天候や価格により出荷量が左右されるため、出荷ピーク時には農協選果場の処理能力の限界を超えるという課題もあります。

④ その他の野菜

農協の共販品目である実えんどう、カボチャ、サトイモは、ばれいしょとの作付け時期との競合や収穫時の労働力不足等により安定生産に至っていません。小面積でも、維持・拡大が必要です。

生姜やゴマについても、台風等の影響から、減少傾向となっています。

ばれいしょに次ぐ品目の確立が求められています。

⑤ 果樹

本県におけるマンゴー栽培は本町が他地域に先駆けて始めましたが、担い手の高齢化や施設の老朽化に伴い、近年は減少傾向にあります。

パッションフルーツについては、天城町農業センターの研修制度による新規参入や簡易ハウスの活用などにより、増加傾向にあります。

その他、タンカンや青果用パパイヤなど、多くの熱帯果樹が栽培されていますが、天候に左右されやすいことや病虫害被害により、栽培面積は減少傾向にあります。

果樹全般において、栽培技術の格差があるため、高位平準化の必要性や、流通面における小売店の開拓や市場への出荷などが課題となっています。

⑥ 花き

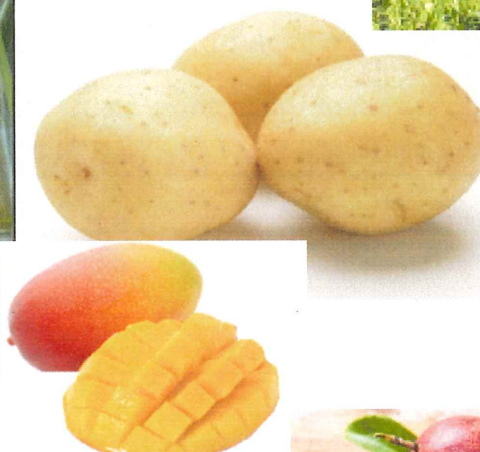
平成 26 年度には徳之島トルコギキョウ組合を設立し、県のコンクールにおいても毎年受賞するなど、高い評価を受けています。

しかし、新規生産者の確保及び育成をすすめ、安定供給を行うことが課題となっています。

⑦ 茶

べにふうきやそうふうは、緑茶・紅茶などの販売で安定しており、需要が高まりつつあります。徳之島が主産地であるサンルージュについては、単収の増加を図り、安定生産を目指しています。

サンルージュについては、コンクール表彰を受けるなど、高い評価を受けているにも関わらず、認知度の低さが課題となっています。



3. 地産地消と食育

町内では、季節に合わせた野菜などが栽培されており、地産地消への取り組みが行われています。有人市場や無人市場も町内に点在していますが、ほとんどが自家消費にとどまっているため、農産物や農産加工品などを出荷・販売できる直売所の整備が望まれます。

また、ライフスタイルや食に関する価値観の多様化に伴い、郷土料理の保護や継承、農産物の供給の低下が課題となっています。

今後、本町ならではの食の魅力を再発見し、多彩な食文化と豊富な農畜産物を活かした食育・地産地消の推進に向けた取り組みや情報発信の強化などが求められます。

4. 農産加工（6次産業化）

生産から加工、販売を行う6次産業化については、小規模経営者が多いことや、生活研究グループなどの高齢化により、法人格を有した新たな起業家は少ない状況です。

また、ばれいしょをはじめとした農産物の規格外品の有効利用などについて検討が必要です。

5. 農地の集積・集約化

平成26年度より農地中間管理事業による農地の集積・集約化を推進していますが、さらに農家への周知や理解を求め、各地区ごとに事業を推進していく必要があります。また、未相続農地も多く存在するため、その解消も急務となっています。

6. 環境保全型農業、資源循環型農業

奄美地域の土壌は比較的地力が弱いため、作物の生産性と収益性を高めるためには土づくりが重要であり、耕畜連携を有効に機能する仕組みが求められます。

世界自然遺産登録を受け、環境保全と美化に対する住民の意識醸成も徳之島全体で取り組んでいく必要があります。

7. 鳥獣対策

農作物に被害を与える動物は、主にイノシシとカラス、アマミノクロウサギです。

イノシシとカラスに関しては、猟友会による捕獲で個体の調整を行っていますが、被害は歯止めがかからない状況です。また、畑地と山間部の境に設置した侵入防止柵でイノシシの被害軽減に努めていますが、破損などが見受けられ管理の適正化が求められます。

アマミノクロウサギは希少保護動物として、共生への取り組みが必要です。

8. 特用林産物

世界自然遺産の一部である、森林の景観や希少な動植物に配慮し、適切な管理を行いながら、しいたけやきくらげなど特用林産物の推進が必要です。

9. スマート農業

ドローンを活用した肥料散布や薬剤散布、ほ場台帳整備や作業量・生産工程情報などのデータ管理による作業の効率化に取り組んでいます。また、害獣捕獲のためのオリワナシステム、牛の繁殖管理システムや、ライブカメラなどの普及が進んでいます。

第4章 施策の基本方針

(計画期間：令和3年度～令和7年度の5年間)

～今後の農業の進め方について～

本町の農業は経済を支える基幹産業です。

今回、3次天城町農業ビジョンの策定においても過去2回のビジョンと同様、基本理念である「ユイ」の精神を引き継ぎながら、「観光」、「環境」、「暮らし」と密接に関わり合い農業振興が図られていく将来像（ゆい・ツーリズム）を目指してまいります。

これからの農業振興を図るうえで、まず大きな課題として“高齢化や担い手不足”があります。農業に限らず、様々な分野において人手不足は深刻な問題となっています。本町の農業を持続的に発展させていくため新規就農者、地域における中心経営体の育成は欠かすことが出来ません。本町にはこれまで培ってきた経験・知識・技術を地域や各作物におけるスペシャリストである先輩農家から「ユイ」の精神で伝承されてきました。この精神をこれからもしっかりと受け継いでいかなければなりません。

高齢化や担い手不足に伴い労働力軽減を目的として機械化が進んできましたが、作業期間が集中し適期作業が困難となり、単収低下を招くという悪循環があらゆる作物で顕著になってまいりました。そこで、令和2年にはさとうきび作業の受委託機能を調整する徳之島さとうきび農作業受委託調整センターが誕生しました。今後、調整機能をさらに強化し、さとうきび以外の作物でも同様の仕組みづくりを進め、作業時期、労働力、機械等の分散化と「ユイ」の精神による異業種間の相互連携を図っていきます。

また、さとうきび、ばれいしょ等基幹作物と労働競合しない新規作物を導入し、補完作物としてバランスよく定着させる必要やスマート農業を活用し効率的な生産体制構築を図っていくことも必要となってきます。

農業振興を図るうえで単収向上は不可欠で、平成22年の農業ビジョン策定以来農業生産額45億円を目指しこれまで2度の達成を見ることが出来ました。限られた耕地面積の中で達成可能なことが実証され、今後は安定的に45億円達成が図られるよう時代や環境に合わせた施策の展開をしていきます。

さとうきび、ばれいしょ等基幹作物と、畜産用飼料作物とのバランスの取れた作付けと、付加価値の高い野菜、果樹、花き、茶の産地化を進めます。

国営徳之島用水事業による徳之島ダムの一部通水が開始され、「水待ち農業」から常時かん水が可能となり農業を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。豊富な水の利用で、さとうきび、ばれいしょの増収はもちろん、かぼちゃ、生姜、サトイモなど高収益が見込める作物及び畜産用飼料作物に効果的な水環境を整えます。

また、農業の基本である土づくりの推進として、土壌診断に基づく土壌改良資材及び堆肥投入による地力の増強、さらに、土壌に合った品種・品目の選定により生産性の向上を図ります。

奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島の世界自然遺産登録を受け、本町の農業は、これまで以上に「観光」、「環境」と深い関わりが出てきます。

亜熱帯性の気候を生かした野菜や果樹、加工品の販路拡大として「あまぎ自然と伝統文化体験館」内に直売所の整備を行い、地産地消の取り組みと合わせ、観光客へ提供できる商品を掘り起こします。

国は2050年の農林水産分野の二酸化炭素排出量ゼロを目指し、化学農薬の使用量半減や有機農業の面積拡大などの目標を設定しています。世界自然遺産の島を護っていくためにも農業用廃プラスチックの適正処理や家畜排せつ物の耕種循環による有効利用など、環境に配慮し世界自然遺産の島としてイメージアップに繋げ、島の農業・農産物の付加価値を高めることで島全体の商工業や観光業などを活性化します。

国は「食料・農業・農村基本計画」を令和2年3月に、鹿児島県は「かごしま食と農の県民条例に基づく基本方針」を令和2年12月に見直しました。

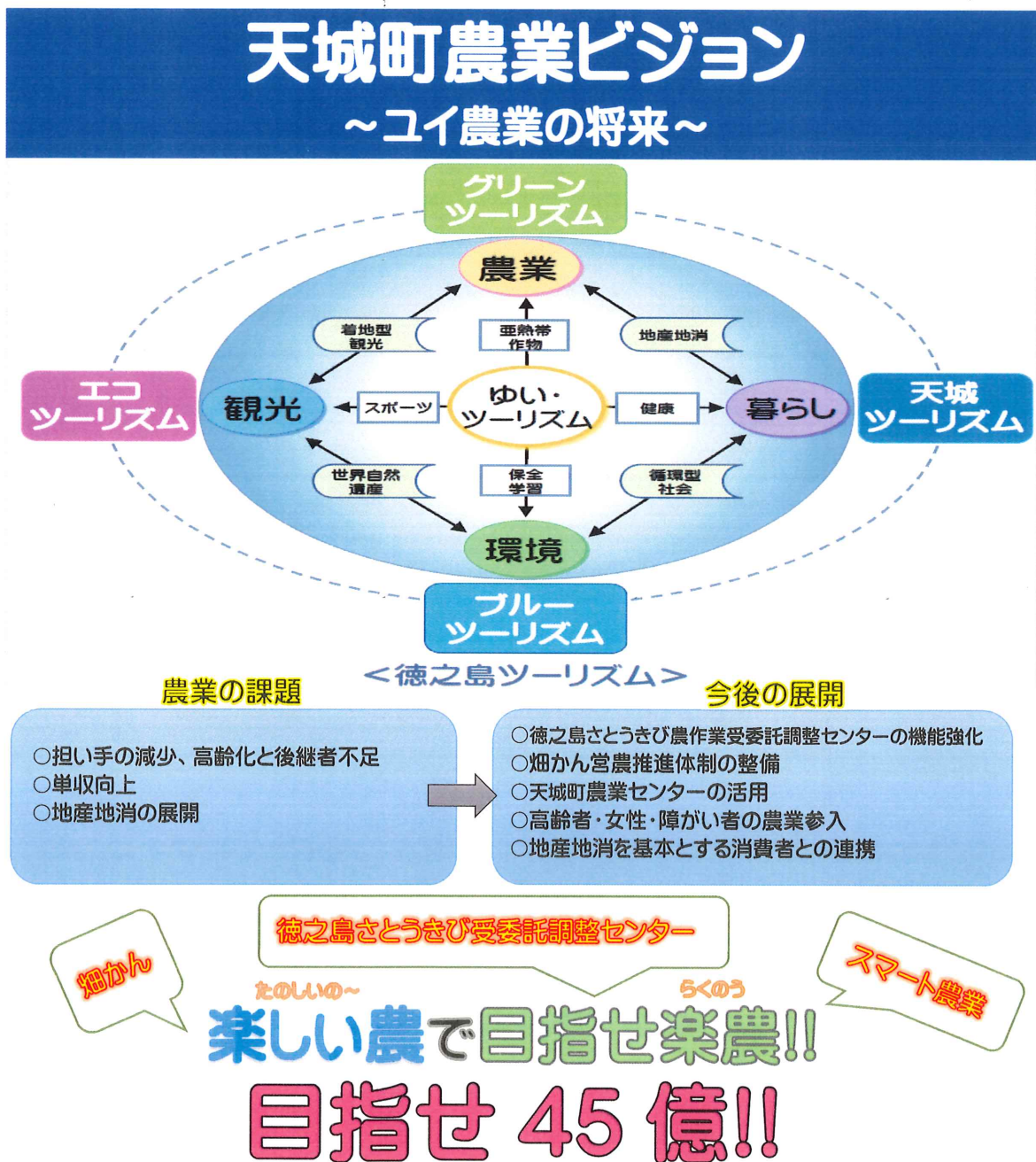
「農」は生きていくうえで必要不可欠な「食」を供給しています。地域の多彩な食文化を支える「農産物」は、農村の美しい景色・豊かな暮らしとともに先人の努力で培われた「有形無形の財産」です。

「食」の基本である地産地消の理解を深め、地元で採れる豊富な農産物が身近なものとして「暮らし」の中に取り入れられるよう、学校給食の充実、有人・無人市場の活性化を図ります。また、「あまぎ自然と伝統文化体験館」内に直売所

の整備を行い、農業者と消費者の交流を促進します。

さらに、生産者組織の育成や、島内販売店・農産物直売所等へ地元産農産物の供給が安定的に行えるよう流通体制づくりを推進します。

ユイの精神による農業の持続性を高め、「食」と「環境・観光・暮らし」を次世代へ継承していくため、所得と雇用機会の確保、新たな活力の創出など、農業の未来を切り拓き、安定的に農業生産額45億円を目指します。



1. 担い手

- ア. 作業時期、労働力、機械等の分散化と「ユイ」の精神による異業種間の相互連携をすすめ、徳之島さとうきび農作業受委託調整センターの機能強化を図ります。
- イ. 持続可能な農業を行うため、人と農地の関わり合いについて、「人・農地プラン」の見直しを継続していきます。
- ウ. 新規就農者の育成・確保のため、天城町農業センターにおける農業研修制度や認定新規就農者制度の活用、資金相談など将来にわたる安定した農業経営支援を行うとともに、指導農業士による技術向上指導を行います。
- エ. 教育ファームを通じた農業体験や幅広い世代を対象とした農業交流を通じ、農業を目指す子供の育成を図ります。
- オ. 女性の農業参加を促すため、ミセスもんぺの活性化を図ります。
- カ. 高齢農業者の知識や経験を生かし、高齢者や障がい者との農福連携を目指します。

2. 作物別の振興方策

- 本町の農業ビジョンで掲げる農業生産額 45 億円を目指すうえで、担い手確保、単収向上に不可欠な、畑かん営農推進体制の整備と、健全な土づくりを推進します。

畑かん推進率の向上により、計画的な水利用による生産性の向上や省力化が図られ、農家の所得向上と地域経済の活性化が期待されます。さらに、天城町農業センターで実施している土壌診断を活用し、ほ場に合わせた農業資材及び堆肥の投入・品目・品種を選定できるよう、研修の開催や情報発信を行います。

① さとうきび

- ア. 令和 2 年 6 月に発足した徳之島さとうきび農作業受委託調整センターの機能強化を図り、低単収要因の一つである植付・株出し管理作業の適期実施を図り、労働力分散に向けた夏植えの拡大やビレットプランタ・スクープ等の機械導入による植付・株出し管理作業の省力化を目指します。
- イ. 補助事業（国・町）による病虫害防除対策支援や可動式誘殺灯の設置によるアオドウガネ等の病虫害被害の軽減を図ります。また、関係機関と連携し、難防除雑草防除技術の開発に取り組みます。
- ウ. ほ場条件や気象条件に応じた品種の推進や、栽培暦の活用、栽培技術研修

など、農家と一体となって単収向上に取り組んでまいります。

②肉用牛

- ア. 増頭支援策として、平成 23 年度から農協とともに、自家保留・導入奨励事業を行い、一定の効果を得ています。増頭に伴う輸入粗飼料への依存度が年々高まりつつありますが、畑かんを活用し、自給粗飼料の収量確保に取り組めます。
- イ. 多頭飼育農家が増えつつある中で、敷料助成や分娩監視システムなどのスマート農業技術の導入で、事故防止や労働力軽減を図り、所得の向上に努めます。また、共済加入の推進、死亡獣畜処理の適正化普及啓発に努めます。
- ウ. 肉用牛ヘルパーや空き牛舎貸借への体制作り、安価な簡易堆肥舎整備やふん尿の有効活用など課題解決へ向け、農家・関係機関と協力して進めます。

③ばれいしょ

定時・定量で品質の安定したばれいしょを出荷できる体制づくりへ向け、適期管理作業の推進、機械導入やスマート農業推進による作業省力化や大規模化、受託組織の構築など、労働力確保と栽培面積の維持拡大に取り組めます。

④その他の野菜

- ア. 実えんどう、カボチャ、サトイモ、生姜は高価格安定露地品目として期待できます。これまで水確保が課題の一つでしたが、通水により畑かんを最大限に生かすことで産地化確立を目指します。
- イ. 収穫期の競合を避けるため台風シーズン前の収穫が可能な豆類やゴマ、施設栽培新規品目の導入を検討していきます。
- ウ. 個別選果作業の負担軽減策として共同選果の体制づくりや選果機導入等による栽培面積・栽培農家数の確保を目指します。
- エ. あたい畑^{ばて}を利用した比較的栽培が容易な野菜等を推進し、高齢農家や小規模農家など多くの方が農業に親しめる環境づくりに取り組めます。
- オ. 天城町農業センターにおける農業塾や市民農園の貸し出しにより、家庭菜園普及を行います。

⑤果樹

ア. 温暖な気候を生かし、多種多様な果樹生産が行われていますが、新規生産者が少なく高齢化が進んでいるため、天城町農業センターの研修制度の活用や、後継者・新規生産者の育成・確保に取り組めます。また、技術支援による栽培技術の高位平準化、各種事業導入の推進及び生産者組織の育成による面積の維持・拡大、新規市場開拓に向けて取り組めます。

イ. 果樹を食のメニューとして提供できる店舗の発掘、果樹メニュー（加工品含む）の紹介マップの作成などにより需要増加を図り併せて生産意欲を高めます。

ウ. 本町の特性にあった高収益を見込める新たな果樹品目の導入を検討します。

エ. 天城町独自の認証制度に向けて取り組めます。

⑥花き

天城町農業センターの研修制度の活用による新規生産者の確保を行い、主力品目であるトルコギキョウのさらなる生産安定と合わせて、新規品目の導入を目指し、産地化を図ります。

⑦茶

技術支援等による栽培技術向上や適期管理の推進、認知度向上を図るため商品開発やPR活動の支援を行い特徴のある茶産地を目指します。

3. 地産地消と食育

ア. 農産物に親しみやすい環境づくりと、「あまぎ自然と伝統文化体験館」内に直売所を整備し、地産地消の取り組みを活発化します。

イ. 教育ファームや親子郷土料理教室、すくすく会や生産者の協力による学校給食への地元食材提供、生活研究グループなど食育推進団体により、食育を進めてまいります。

ウ. 天城町食育推進計画に基づき、昔ながらの郷土料理の良さを見直し、食の魅力の再発見や多彩な食文化と豊富な農畜産物を生かしたレシピ動画及びレシピ本（冊子）を作成し、誰もが手軽に郷土料理を楽しめるよう推進します。

エ. 観光客が、宿泊施設や飲食店において地元の食材や食文化に触れたり、農業体験のできる場を提供し、生産者と消費者を繋ぎ、地元産品の消費を促進するようにします。

4. 農産加工（6次産業化）

- ア. 生産から加工、販売までを行う6次産業化に取り組む起業者を育成できるよう、生活研究グループの維持・拡大、天城農産加工研修センターの充実を図ります。
- イ. ばれいしょや果樹等の規格外品の農産物については、農協や関係機関と連携し、有効利用に向けた方策の協議、加工品としてのメニューの考案への支援を行います。

5. 農地の最適化

- ア. 新規就農者や認定農業者は経営規模の拡大志向が強いですが、農地の貸し手が少なく、計画的な規模拡大に至っていないため、農業委員会と連携し「農地中間管理事業」の活用で農地の集積・集約化を進めます。
- イ. 荒廃農地の解消と新たな遊休農地の発生を防ぎ、農地の確保に努めるとともに、未相続農地等の解消に取り組みます。

6. 環境保全型農業、資源循環型農業

- ア. 農地環境を適切に保全するため、赤土流出防止や排水路の整備、多面的機能支払交付金事業、クリーン作戦等を継続します。
- イ. 土壌診断結果に基づく堆肥の活用など、資源の循環や化学肥料の減肥による生産コスト削減と土づくりに対する意識高揚の推進により生産性と収益性の向上に繋がります。
- ウ. ビニール系農業資材の適正処理推進、GAPへの取り組み、エコファーマーの認定など資源循環型農業を進めます。
- エ. 世界自然遺産登録を受けて、環境保全と美化に対する住民の認識を高め、自然と動植物の保護、農地と集落環境の保全と美化に努めます。

7. 鳥獣対策

- ア. 害獣を寄せ付けない・侵入させない・個体数を減らす環境づくりに努めます。
- イ. 過去に設置した侵入防止柵及び囲いワナについて、十分な効果を発揮できるよう定期的な点検を地域・猟友会と取り組みます。
- ウ. 畑を自ら守るため、電気柵・アニマルネット・金網柵の導入助成を継続して行います。

Ⅰ.「山猪工房あまぎ」の利活用と新メニューの開発などジビエ料理の普及で、イノシシを害獣から資源とみなし捕獲を促進します。

8. 特用林産物

世界自然遺産登録を受け、これまで以上に環境に配慮し、適切な整備や地球温暖化の防止、循環型社会の形成に努め、しいたけやきくらげなどの特用林産物の生産や流通を進めます。

9. スマート農業

糖業分野においてパソコン上で受委託調整業務を完了する「ほ場台帳システム」を整備し、徳之島さとうきび農作業受委託調整センターでの作業受託受付業務の効率化が図られています。畜産分野においても、繁殖管理台帳や分娩カメラ、発情発見装置の普及が進んでおり、大規模農家においては、哺乳ロボットの導入も見られます。

畑作物におけるドローンによる防除薬の散布や、イノシシワナの動きを知らせるオリワナシステムの利用など、先進的なロボット技術や情報通信技術が様々な分野で活用されています。

今後も、省力化や規模拡大、農畜産物の生育管理、土壌や気候などのデータ活用などスマート機器の導入を推進します。



3次農業ビジョン策定委員会名簿

No.	所 属	職 名	氏 名	備 考
1	天城町議会	建設経済産業常任委員会委員	昇 健児	R2.10.19～R3.8.5
2	天城町議会	建設経済産業常任委員会委員	吉村 元光	R3.8.6～
3	あまみ農協天城事業本部	畜産園芸課長	寿山 博	
4	あまみ農協天城事業本部	糖業農政課長	豊 昭仁	
5	南西糖業(株)	原料事務所長	順田 勉	
6	鹿児島県農業共済組合 南大島支所	事業課長	前田 正之	
7	天城町認定農業者連絡協議会	会長	吉川 一成	
8	女性農業者・参画21		新田 和枝	
9	認定新規就農者		寿 いづみ	
10	すくすく会	会長	松山 順子	
11	林業事業体		中野 一	
12	農地整備課	農地整備課長	大久 明浩	
13	農業委員会	事務局長	伊地知 隆治	
14	農 政 課	農政課長	山田 悦和	
15	//	課長補佐兼係長	上岡 久人	
16	//	課長補佐兼係長	西松 清仁	
17	//	主幹兼係長	永野 延浩	～R3.3.31
18	//	主幹兼係長	高峰 美奈子	R3.4.1～
19	//	主事補	藤本 弥生	

農業ビジョン策定の主な経過

R2.10.19	策定委員会の委嘱
R2.11.24	策定委員会
R3.4.9～R3.5.21	各部会ごとの打ち合わせ
R3.8.19	町長ヒアリング
R3.10.13・R3.11.11	全部会による打ち合わせ(糖業、畜産、園芸、生活、鳥獣・林務、農整、農委)
R3.11.16	全部会による生産額打ち合わせ
R3.11.17	策定委員会
R3.12.22	策定委員会
R3.12月	関係者・関係機関へ提出

平成22年3月天城町農業ビジョン策定

平成28年3月2次天城町農業ビジョン

令和3年12月3次天城町農業ビジョン

R3/12/16作成

20